

# 公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン 評価委員会 議事録

## 1. 日 時

平成 24 年 11 月 26 日（月） 午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分

## 2. 場 所

公立藤岡総合病院附属外来センター 2 階 第 1 会議室

## 3. 出席者

### (1) 評価委員会委員

委員長

藤岡市副市長

金井 秀樹

副委員長

高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科准教授

木村 憲洋

委員（五十音順）

藤岡市区長会会長

青木 耕

藤岡市国民健康保険運営協議会会長

新井 國雄

藤岡商工会議所会頭

梅澤 徹

藤岡市鬼石商工会会長

永井 孝男

藤岡多野医師会会長

山崎 恒彦

### (2) 病院長

公立藤岡総合病院長

鈴木 忠

藤岡市国民健康保険鬼石病院長

高橋 伸夫

### (3) 事務局

多野藤岡医療事務市町村組合公立藤岡総合病院

多野藤岡医療事務市町村組合事務局長兼経営管理部長

坂本 和彦

経営管理部次長

黒澤 美尚

経営管理部企画財政課長

高柳 和浩

経営管理部企画財政課長補佐兼企画財政グループリーダー

中里 光夫

経営管理部企画財政課主査

山崎 雄大

藤岡市国民健康保険鬼石病院

事務長

茂木 裕

事務課長

植村 均

事務課係長

桜井 崇裕

## 1. 開会

公立藤岡総合病院経営管理部企画財政課長により進行。

改革ガイドラインに基づき、点検評価を年1回以上行い、結果を公表することとなっている。記録の正確性のため会議の内容を録音し、議事録をそれぞれの病院のホームページにて公表することに了解を求めた。

## 2. 挨拶

両病院を代表して公立藤岡総合病院長

皆様、こんにちは。評価委員の皆様にはたいへんお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。

本日は、第4回改革プラン評価委員会でありますけれど、平成23年度の実績を中心に、両病院の取り組みを評価していただきたいと思います。その中で、忌憚のないご意見をいただければ、幸いと存じます。

この改革プランが作成されたのは平成21年3月であります。平成20年度に策定し、21年・22年・23年度、経過したところであります。途中2回診療報酬改定がありましたが、急性期を担う病院にとっては、追い風の診療報酬改定となり、慢性期を担う病院にとっては必ずしも、追い風というよりは逆風的な診療報酬改定だったと思います。

いろいろ外部の状況が変わっておりますけれど、健全経営に努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

## 3. 議題

評価委員会設置要綱第6条第1項により金井委員長が議長となる。

### (1) 改革プランの進捗状況について

公立藤岡総合病院および藤岡市国民健康保険鬼石病院のそれぞれについて、各病院事務局より下記資料の要点を説明した。

- ・公立病院改革プランの概要
- ・公立病院改革プランの進捗状況
- ・平成24年度上半期までの改革プランにおける指標別の達成状況
- ・平成24年度上半期までの収支状況

### 【藤岡総合病院 企画財政課主査】

それでは、まず、公立藤岡総合病院より説明をさせていただきます。

はじめに「公立病院 改革プランの概要」からご説明させていただきます。

数値についての朱書き部分は、プラン目標値に取り消し線を引き、実績値を記入して

います。今回は23年度の実績値が新たに記入されています。

実績値につきましては、このあと進捗状況の資料の中でご説明いたします。

記述につきましては平成23年度、新たに書き加えた事項についてご説明いたします。

1 ページ目の記述で特に追記した部分はございません。

2 ページ目をご覧ください。経営効率化に係る計画ですが、一部完結したものを除き、継続した取り組みを行っております。

平成23年度、新たに行った取り組みといたしましては、「民間的経営手法の導入」といたしまして滅菌処理業務の外部委託化を行った事について、今回、新たに追加いたしました。

それから収入増加・確保対策部分ですが、未収金対策の一環といたしまして診療費および人間ドック利用料のクレジットカード納付の導入を昨年9月より導入したことにつきまして、今回、新たに追加いたしました。

また「その他」といたしまして、入院棟の基幹システムが昨年11月より電子カルテシステムに移行し、業務の効率化を図ることについて新たに追加いたしました。

次に3ページ目ですが、今回、記述で新たに追記した部分はございません。こちらも継続的な検討を行っております。

4ページ～9ページまでは収支計画となりますが、入院棟と外来センターの合計、入院棟単独、外来センター単独の3通りについて、それぞれ、今回は、平成23年度の実績を記入しております。収支については、このあとの進捗状況でご説明いたします。

それでは、横版の資料「公立藤岡総合病院改革プランの進捗状況」をご覧ください。

1 ページから4ページまでは、改革プランに定めた「経営効率化に係る計画」「再編・ネットワーク化に係る計画」「経営形態見直しに係る計画」のそれぞれについて、これまでの実績と平成24年度上半期までの進捗状況をまとめたものです。

はじめに「1. 経営効率化に係る計画」ですが、これは、改革プランの概要2ページ目に相当するものです。

「(2) 事業規模・形態の見直し」といたしまして、入院棟と外来センターの再統合について検討を行っております。これまでの経過と直近の進捗状況を記載してあります。平成24年度においては、より具体的な計画および計画図を策定すべく、コンサルタントを導入し、計画案策定に向けて動いております。

2 ページ目をお願いいたします。「(3) 経費削減・抑制対策」ですが、人件費削減・経費削減については継続的に取り組んでおります。

平成22年度から取り組んでおります薬品及び診療材料の契約交渉支援業務委託による材料費削減、一番下の欄になりますが、平成23年度は材料費で約6百万円、薬品費で約千3百万円の削減効果が得られております。これにつきましては、平成24年度も他施設との価格比較を行い、価格管理を行っております。

3 ページ目をお願いいたします。「(4) 収入増加・確保対策」についてですが、主だったものについて、23年度の実績と24年度上半期までの実績が記載されております。

DPC請求による稼働額につきましては、年々一人あたりの入院単価が向上しております。今後も木村先生にお手伝いいただき高崎健康福祉大学との共同研究により正確なコーディングによる請求額の向上を図ります。

未収金対策ですが、職員による訪問と外部委託による回収を行っております。成果に

ついてはご覧のとおりでございます。

医師事務作業補助体制加算につきまして、24年度より人員配置の増加に伴い、40対1の加算に変更となり1件当たりの単価が3,300円となりました。これについては、今後も強化を検討し、収入増加の対策としてはもちろん、さらなる医師の業務効率化につなげて行きたいと考えております。

次に4ページ目につきましては、ご覧いただければと思います。

5ページ目をお願いいたします。「平成24年度上半期までの改革プランにおける指標別の達成状況」について、ご説明いたします。この表は、改革プランの概要1ページ目の財務に係る数値目標、2ページ目の医療機能に係る数値目標の表に相当するものとなっております。

はじめに財務に係る数値目標ですが、23年度実績で、病床利用率以外はプランの数値目標を達成しております。

病床の利用率については、今後、地域支援病院として病診あるいは病病連携をさらに深め、とどこおりのない退院支援を行い、病床の利用率・回転率を上げて行き、患者数の増加・収入の増加へつなげて行きたいと考えております。

次に医療機能に係る数値目標につきましては、23年度実績で入院患者数および外来センターの外来患者数が若干、目標値を下回りました。また24年度の上半期までの実績を、それぞれ右側に記載しておりますので参考までにご比較下さい。

6ページ目では、「改革プランとの比較」として、23年度実績とプランの目標値を比較しています。入院棟と外来センター併せての純損益を当初プラン目標値は、約2億3千万円の赤字としましたが、約3億5千万円の黒字となり、目標値を上回りました。

7ページ目をお願いいたします。「平成24年度上半期までの収支状況」ですが、「前年度との比較」といたしまして、23年度の実績で、純損益の欄をご覧いただきますと、入院棟は約2億円の黒字、外来センターは約1億5千万円の黒字となりました。

22年度実績と比較いたしますと、併せて4千万円ほど赤字が解消され、23年度は約3億5千万円の黒字となりました。

24年度の上半期までにつきましては、23年度と上半期同士の比較で、若干上回り推移しております。

以上、雑駁ではございますが、公立藤岡総合病院改革プランの進捗状況についての説明とさせていただきます。

#### 【鬼石病院 事務課係長】

鬼石病院改革プランの概要説明をいたします。1ページをご覧ください。

まず医療を取り巻く環境として、平成22年度に診療報酬改定があり10年ぶりにプラス改定となり、平成24年度の診療報酬改定もプラス改定でありました。しかしながら、二度の改定とも救急、小児、周産期や外科系の技術料等に集中配分されており、当院のような慢性期の病院には、ほとんど恩恵が無かったのが実状でございます。

次に、鬼石病院を取り巻く地域の環境として、鬼石地区は、平成22年6月に個人の医院が廃院となり、現在では、鬼石病院が鬼石地区唯一の医療機関となり地域医療圏の核となり医療、保健を担っています。

次に、経営効率化に係る計画では、23年度実績値が出ましたが年度の後半には看護職員の産休・育休者が多数出てしまい、補充が間に合わず入院制限を行った事により入

院収益が減収となり経常収支比率が前年度より6.3%悪化いたしました。

続きまして2ページをご覧くださいと思います。

次に、公立病院としての医療機能に係る数値目標では、23年度実績値で1日平均入院患者数は療養病床においては、ほぼ目標数値ですが一般病棟は、先ほどお話しした理由によりまして3.7ポイント下回り、外来患者数では大きく目標数値を下回りました。外来については、地域人口の減少や薬の処方日数の長期化により年々減少傾向が続いています。

次に、経営効率化に係る計画については後ほど説明致します。

3ページをご覧ください。このページは特に変更ございません。

続きまして4ページです。

1. 収支計画（収益的収支）について説明致します。

23年度の経常収益では、10億3,600万円で前年度比5.9%の減。経常費用では、11億3,200万円で前年度比0.4%の増、プラン見込額で100万円程オーバーとなり、経常損益では9,600万円の赤字、特別損益の特別損失（過年度損益修正損）1,400万円を合わせると1億1,000万円の大幅な赤字となりました。

続いて一番下の病床利用率でも91.4%と目標数値を下回る結果となりました。

続きまして5ページをご覧ください。

2. 収支計画（資本的収支）3. 一般会計等からの繰入金の見通しについては例年同様ですのでごらん下さい。

続きまして横向きの資料になりますが、改革プランの進捗状況について説明させていただきます。

まず1ページ目です。1. 経営の効率化に係る計画です。

(1) 民間的経営手法の導入では、清掃、外来窓口、給食業務を早くから全面委託しています。

(2) 事業規模形態の見直しでは、当面は藤岡総合病院を急性期、鬼石病院を慢性期として機能分担し、地域連携室を通してさらに連携強化を図ります。

(3) 経費削減・抑制対策では主なもので、省エネ意識徹底による光熱水費経費削減の継続。昨年度は、(財)省エネルギーセンターによるビルの省エネルギー診断を受診しましたので、受けた評価と検討項目の検証を行い、今後、LED照明への転換等、実施可能なものから予算化を予定しております。

その他の項目については引き続き実施いたします。

2ページをご覧ください。

(4) 収入増加・確保対策です。主なものでは、病床区分変更で、22年10月より療養病床を25:1から20:1に変更いたしました。療養病床医療区分2,3の患者を70%から80%確保を目標とし、23年度は87.0%でした。

フィルムレスによる診断機器を整備しデジタル映像化処理加算の算定では、23年度で西毛地域医療再生基金によりPACSとCTを導入いたしました。

在宅医療のより一層の推進により在宅医療収入増を図るでは、22年4月より訪問看護ステーションを開設し業務拡大中です。

(5) その他につきましてはご覧下さい。

3ページでございます。

(6) その他の特記事項につきましては昨年同様ですので、ご覧ください。

続きまして4ページです。

平成24年度上半期までの改革プランにおける指標別の達成状況についてです。23年度の後半から実施した入院制限が24年度上半期まで影響して、財務に係る数値目標・医療機能に係る数値目標ともに前年数値を下回っております。

続きまして5ページをご覧くださいと思います。

平成24年度上半期までの収支状況についてです。

1. 前年度との比較で23年度実績では、総収益対前年比で6.0%の減、総費用で1.8%増となり純損益で1億1,092万7千円の赤字となりました。

2. 改革プランとの比較ですが23年度実績では、総収益で8.4%の減、総費用で1.4%増と改革プラン見込値を上回ってしまいました。

3. 現金推移では24年9月末で6億4,302万円の残高です。対前期比較マイナス8,519万1千円ですが、前年同月と比較するとマイナス589万7千円です。

以上説明とさせていただきます。よろしくお願い致します。

#### 【金井委員長】

それぞれの病院の進捗状況について、説明がありました。ここまでで何かご意見がございましたでしょうか。

それでは、私の方から、公立藤岡総合病院の方は、皆さんの努力の甲斐あって、黒字となっており、収益も増えてきているという説明を受けましたが、主な原因としてはなんでしょうか。

#### 【藤岡総合病院 経営管理部次長】

主な原因といたしますと、やはり先程からのお話にありますように、診療報酬改定が急性期病院に厚くプラス改定となりました。患者数についても、年々伸びておりますので、収入の増加が主な原因となっております。また、費用についても継続的な削減対策が功を奏して、改善の一因となっております。

#### 【金井委員長】

わかりました。もう一点、鬼石病院ですが、育休・産休で看護師が不足したという説明ですけれども、当然、予定の立つ休暇だと思っておりますが、その辺の事前の対策がなかったのかご説明をお願いします。

#### 【鬼石病院 事務長】

平成23年度で7人の育休・産休が、発生をいたしました。各病棟単位に余裕の人員として医療における基準のプラス2ということで、日常的には配置をする体制をとっていたのですが、予定を大幅に上回る人数が発生いたしました。また、年度途中で退職した職員が、5人おりましたので、全体では12人いなくなったという状況です。

また、鬼石病院は、地域的な問題や慢性期の病院ということで、看護師の確保が困難な状況にあります。現実にはその時期いろいろな形で募集をかけていたのですが、確保には至りませんでした。

今現在、平成24年度に入って、概ね予定の人員は確保できておりますが、鬼石病院といたしましては、今後、看護師の確保につきましては、藤岡准看護学校や藤岡総合病

院と連携をとりながら、確保に努めていきたいと思いをします。

**【金井委員長】**

医師がいなくて入院制限を行ったのであれば、仕方がないのかもしれないけれど、看護師がいなくて、病院の稼働が悪いというのは、やはり事務方の計画をもう少しうまくしていかなければ、ならないのかと思います。今後の努力目標としてお願い致します。

**【金井委員長】**

このままご意見なければ、先に第2次改革プランの説明の方に入ることにしてもよろしいでしょうか。

それでは、公立藤岡総合病院より第2次改革プランについての説明をお願い致します。

**(2) 第2次改革プランの進捗状況について**

公立藤岡総合病院および藤岡市国民健康保険鬼石病院のそれぞれについて、各病院事務局より下記資料の要点を説明した。

- ・第2次公立病院改革プランの概要

**【藤岡総合病院 企画財政課主査】**

それでは、まず、公立藤岡総合病院より説明をさせていただきます。

公立病院改革プランの期間は平成21年度～平成25年度までとなっておりますが、収支計画は平成23年度で終わっております。この、第2次改革プランは、これまでの改革プランを引き継いだ形で新たに平成24年度・平成25年度の収支計画を立て、記載されたものです。

1 ページ目をご覧ください。内容につきましては、これまでの改革プランを引き継いでおります。「財務に係る数値目標」は、21年度～23年度の実績の後に24年度・25年度の目標値を新たに立て、記載されております。

2 ページ目をご覧ください。一番上「医療機能に係る数値目標」ですが、先ほどと同様、21年度～23年度の実績の後に24年度・25年度の目標値を新たに立て、記載されております。年間の入院患者数については、後方支援病院との連携をさらに深めて、迅速な退院支援を行い、病床の利用率・回転率を上げ、より多くの入院患者を受け入れて行きたいと考えております。

それから「経営効率化に係る計画」の部分ですが、こちらも、内容につきましては、これまでの改革プランを引き継いでおります。

新たに平成24年度以降で、追記しているものについて、ご説明いたしますと、「事業規模・形態の見直し」のところ、平成24年度にコンサルテーションを導入し、統合計画を具体化することと、今後の取組予定を記載しております。

また「収入増加・確保対策」では、外来センターに外来化学療法室を増築することについて、記載しております。地域住民にとって、安全・快適に外来でのがん治療が行える施設が整い、より多くの患者さんに利用していただきたいと考えております。こちらは、来月オープンの前定となっております。

「その他」の部分では、入院棟の基幹システムが昨年11月より電子カルテシステム

に移行しておりますが、外来センターの方も、来月より電子カルテシステムに移行し、業務の効率化を図ることについて追加いたしました。

また業務の効率化という面では、医師の負担軽減が課題となっております。今後はさらに、医師事務の作業補助体制を強化し、医師の業務効率化を図っていきます。

次に3ページ目ですが、「再編・ネットワーク化に係る計画」の部分は24年度以降の計画を記載しております。先ほど2ページの「事業規模・形態の見直し」と重複する部分でございますのでご覧ください。

また、「点検・評価・公表等」の部分ですが、この第2次改革プランをこれまでと同様に平成24年度以降も点検・評価していただき、公表する予定でいることについて、記載させていただきました。

次に4ページ～9ページまでは収支計画となります。4ページ～5ページまでは入院棟と外来センターの合計、6ページ～7ページまでは入院棟単独、8ページ～9ページまでは外来センター単独の3通りについて、それぞれ、21年度～23年度の実績の後に24年度・25年度の目標数値を新たに立て、記載されております。

この目標数値は、平成24年度上半期までの実績値をもとに、平成24年度・25年度の目標数値を立てております。

4ページをご覧ください。平成24年度の入院棟と外来センターを併せた純損益として、約3億6千万円の黒字。同じく平成25年度については、約3億円の黒字を目標値として計画いたしました。

以降はご覧いただければと思います。以上です。

#### 【鬼石病院 事務課係長】

第2次藤岡市国民健康保険鬼石病院の改革プランについて説明させていただきます。

公立藤岡総合病院と同様に平成24年度から25年度にかけて2ケ年の計画として策定しました。

先程、説明いたしました進捗状況の部分でお示ししたとおり、平成23年度後半に看護要員の不足により病床利用率は大きくマイナスとなり、平成24年前期においてもその影響が続く状況となっております。近年、鬼石病院の病床利用率は95%前後と高水準で推移して参りましたが、平成23年度では91.4%、平成24年度でも前期において前年度の影響が残る経過となったことから92.0%で見込んでおり平成25年度では94.9%と従前の病床利用率で計画しました。

外来患者数においても、年2%から3%とわずかずつではありますが減少傾向が続いております。主たる要因としては鬼石病院を取り巻く地域医療圏の人口減少等によるものと考えており、合併時から比較しても地域人口は、十数パーセントのマイナスとなっております。

それでは、1ページよりご説明申し上げます。策定日は10月1日とさせていただきます。公立病院として今後果たすべき役割では、医療の機能分化が進む中、公立藤岡総合病院との連携により地域医療を担うものとしております。

一般会計における経費負担区分の考え方では、一般会計からの繰入項目について触れ今後総務省通知の繰出基準の考え方に基つき、新たな繰出について市と協議するとさせていただきます。当院のような小規模の病院は、経営効率が悪いことから、同規模の自治体病院における一般会計繰出金では、平均でも3倍から4倍の繰出金が投入されて



いることから、今後市との協議を進めていきたいと考えております。

1 ページの経営効率化にかかる計画及び2 ページの公立病院としての医療機能に係る数値目標では、平成 23 年度では経常収支 91.5%と大変厳しい状況となったことから、平成 24 年度後半から従前の病床利用率を回復し、平成 24 年度経常収支 94.3%、平成 25 年度 96.9%で経常収支の改善に向けて目標値を設定しております。

2 ページの中段になりますが、数値目標達成に向けての具体的な取組及び実施時期の部分では、地域医療圏人口の減少を受けて事業規模の検討、平成 25 年度では経費削減・地球温暖化対策として LED 照明の予算化、収入増対策として健診機能の充実やサービス付き高齢者専用賃貸住宅事業者との連携、地域の過疎化・高齢化を受けて患者送迎の実施などの取り組みを計画しました。

3 ページの再編・ネットワーク化の部分では、公立藤岡総合病院との更なる連携強化を目指すものとしたしました。

4 ページから5 ページにかけて収支計画を数値化しました。平成 23 年度では1 億 1,100 万円と大きな赤字決算、24 年度では6,800 万円の赤字を見込んでいます。また、平成 25 年度の収支計画でも3,800 万円の赤字見込みと厳しい計画となりました。

鬼石病院は、平成 19 年度まで黒字を計上してまいりましたが、医療制度改正が進み地域の医療環境が変わる中で赤字体質となり 20 年度より赤字が続いております。経営環境を考えると過疎地域における病院の在り方について早急に再検討する時期に来ており、大きな意味で転機を迎えていると考えております。

これらの諸問題を解決し経営基盤の安定化を図るため、平成 25 年度中には公立藤岡総合病院との機能分担・連携強化を含め医療機能・事業規模・看護単位等について具体的検討を進めて行く予定です。

以上、第2 次藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プランの説明とさせていただきます。

**【金井委員長】**

どうもありがとうございました。委員さん何かございますでしょうか。

それでは、全体的な考え方、いままでの総括等、木村先生の方から何かアドバイス等お願い致します。

**【木村副委員長】**

公立藤岡総合病院の方は、医業収入が上がっておりまして、非常に素晴らしいことだと思います。一方、職員給与比率が年々下がってきているのは、何かされたのでしょうか。

**【藤岡総合病院 経営管理部次長】**

要因の一つとして、全体的な公務員給与のマイナス改定の影響などによるものが考えられますが、業務委託のアウトソーシング化により給与比率が減少している事も事実です。

**【木村副委員長】**

大抵は売り上げが上がりますと人件費も上がりますので、経営が厳しくなるものです。それが病院のような労働集約型の特徴だと思いますが、それを考えると素晴らしい結果

となったと思います。

24・25年度の計画に関しても数字的には妥当性がある、クリアできるのではないかと思います。

逆に少し気になったのは、鬼石の病院改革プランで、今後、慢性期を担っていく医療機関は、もっと厳しくなっていくと考えております。特に鬼石地区は、人口も減りつつあるので、そういう意味では、今後どうして行くのかをはっきりして行かないと、厳しいかと思います。

24年度の売り上げは下がると予想されていて、25年度は伸びることを予想されておりますが、これは私的には、ちょっと難しいのではないかと思います。実際には赤字幅が同等もしくは拡大するのではないかと懸念しております。国の政策もそうですし、医療機関というのは、患者数が人口に比例する部分がありますので、もう少し考えられた方がいいのではないかとあります。

将来的にどのような連携を藤岡総合病院と鬼石病院でして行くかということも踏まえ、また、先程、公立藤岡総合病院がコンサルタントを入れ、新病院の建築計画があるというお話もお聞きしましたので、その辺も含めて、詰めて行く必要があるような気がしております。

#### 【金井委員長】

どうもありがとうございました。他に何かございますでしょうか。

今、先生からお話がありましたが、鬼石病院は非常に厳しい状況であるということですが、地域住民の事を考えますと、行政としては赤字だから即どうこうする様な事にはならないと思います。その中で、どうすればうまく行くのか、公立藤岡総合病院との連携もさることながら、単独で患者さんと呼び込める工夫がないのかと思います。

例えば、訪問看護に力を入れて収益を確保するだとか新しい分野への考え方があってもいいのではないかと思います。公立藤岡総合病院を例にとると、訪問看護開設当初は赤字だったものの、今や大きく黒字化していると思います。そういうことを考えると、これから訪問看護に力を入れれば、収益を確保できるのではないかと素人ながらに思うのですが、事務長いかがでしょう。

#### 【鬼石病院 事務長】

訪問看護は、開設以来、人員を徐々に増やしていくような動きで、需要もあります。実質的には、徐々にその部分の収益も増えておりますし、利用者も増えております。

その他この地域でやらなければならない事として、移動手段のない高齢者の方が多くいらっしゃるということで、来年度何とか1台中型の車を購入して、過疎の山間部への送迎をして行こうという計画を立てております。

また、現在の鬼石病院の病床99床がいいのかどうかについて根本的に検討して行こうという話をしている最中です。病床を段階的に減らし規模を縮小するですとか、看護単位を10:1から13:1へ変更したらどうだとか、療養病床を増やし一般病床を減らしたらどうだとかを視野に入れております。

何とか経営基盤を安定させるために、試行錯誤しているところであります。

【金井委員長】

その他よろしいでしょうか。

それでは、本日用意いたしました議題については全て終了いたしました。本日はありがとうございました。

(3) その他

特記事項なし

4. 閉会

---

午後2時30分 閉会